



▲むかしから津波被害を受けてきた須崎湾

背景

須崎市に「宝永津浪溺死之塚」という石碑が建っています。安政南海地震の2年後の安政3年（1856）につくられたものです。宝永元年（1704）の宝永地震津波で亡くなった400人余の亡骸を改葬する際に、150年忌を記念して建立されたものです。作者の古屋尉助という人は、この石碑に地震津波に遭遇した時の心構え、教訓などを記しています。

アクセス 宝永津浪溺死之塚

- JR須崎駅より西へ直線距離約1 km（お馬神社すぐ南）
- 須崎市西糺町
- 緯度経度 北緯33度23分42秒，東経133度17分03秒



「宝永津浪溺死之塚」には、後世の人が津波被害に遭わないように、以下のような内容が記されています。

宝永津波の犠牲者の一五〇年忌を準備している最中に、安政南海地震が起こりました。人々は宝永地震の津波のことを知っていたので、我先に山林に避難しました。このため、安政南海地震の時には昔のように津波の犠牲者を出さずに済みました。ただ、船で避難しようとして、津波で転覆して三〇余人が亡くなったことは痛ましいことです。

なぜ津波の時に船で避難しようとしたのかというと、昔からの言い伝えの中に、山に登ろうとして石に当たって亡くなったという話や、沖に出た人が無事帰ってきたという話があり、それを間違って解釈したためです。津波が来る前に早く沖に出るのなら安全だったでしょうが、地震にあつた後に船出をすることは危険なことです。

地震が起きたら津波があると考え、油断してはいけません。しかし、地震が起きたらすぐに津波が来るというものではありません。（注…この記述は間違いであり、地震後すぐに津波が来ると考えるべきです。）少し間があるので、揺れの様子を見計らいながら、食べ物、衣類等の用意をして、石の落ちてこない高所を選んで逃げることです。その時も山の頂上まで登る必要はありません。今回の津波でも古市神母の辺りでは屋敷に水は入らなかったし、昔の津波でも伊勢が松で数人助かったと言われています。津波と言ってもそれほど高いものではありません。

一五〇年に二度も同じようなことが起こったのだから、考えないといけません。将来もこのようなことが起こると考えなくてはいいけません。後世同じようなことに遭遇する人の心得になればと思います、みんなで議論してこの石碑を建て、そのことを記して下さい、と私はお願いしたのです。そこで私はおおよそのことをこの石碑に書き記したのです。